

夕暮れクリスタルスターライト番外編

『雪菜とシルフィードのネーヴェエント・コンチエルト』



シルフィード & 雪菜



■ オープニング

シル 「——なんでまた、あたしたちがここに呼ばれているわけ？　というか、いつもの二人は

……晶と美樹はどうしたのよ？」

雪菜 「（しばらくお休みになるのではないのですか……？）」

シル 「いや、だからどうして休んでいるのよ？」

雪菜 「（えっと……『夢の残照』最終回シリーズに向けてネタバレしないように出演を見合わせている……そうなのですよ）」

シル 「どこ情報よ、それ……」

雪菜 「（作者さんからののですけど……）」

シル 「毎度毎度のことだけど、それは妄想と空想を、想定と現実とごっちゃにして勘違いも甚だしい文系出身の自称天文学者が弾き出した天文学的数値クラスの信憑性絶無さを誇っているわね」

雪菜 「（の、のーこめんとなのでですよ……）」

シル 「で、あたしとあなたで『夕暮れクリスタルスターライト』の代わりをやってことなのよね？　これは」

雪菜 「（そういうことになると思うのです）」

シル 「というか、あんた喋れない……わけじゃないと声聞こえないでしよう？　どうするのよ、今みたいに一々あたしが通訳とか面倒くさすぎるだけ……」

雪菜 「（これがあるのです！）」

シル 「スケッチブック……これで筆談するってこと？」

雪菜 『そうなのです』

シル 「一応ラジオ番組の体裁を取っているこのチラシコーナーでどうなのよ、それは……」

雪菜 『「気にしたら負け」って作者さんが言っていたのです』

シル 「……あとで一回、首の座標がずれる程度にぶん殴っておくわね、あいつは……」
雪菜 『で、テンション上げて行きましょう！』

シル 「まあいいわ、どちらにせよ始めて締めないと終わらないわけだしね」

雪菜 『それでは、〃登場するなら今しかない！〃な季節真つ盛りのおやかしであるわたしこと雪女『雪菜』と——』

シル 「怒濤の如き強靱さと疾風の如きしなやかさを兼ね備える美少女天才武装妖精こと、このあたし『シルフィードⅡGⅡアストラリア』でお送りする——」

二人 『ネーヴェエント・コンチエルト!!　始まりですよ〜!』

■ 配布物

シル 「えっと、一応進行はこれまでのフォーマットを踏襲する……ということで、さっそく配布物について……」

雪菜 『ぜ、前回と同じなのですよ……』

シル 「そりゃまあ、去年の夏くらいから原稿は『カメ』どころか『漬け物石』な進捗だしね」

雪菜 『それは〃進んでいる〃とは言わないのです……』

シル 「最近サークル関係で進捗があつたことといえば、文庫本作成ツール『威沙』関連のことくらいだしね」

雪菜 『作者さん、去年は頻繁にリリースしていたのですよ』

シル 「ユーザーさんからバグ指摘受けて、頭抱えていたらしいけど……あの馬鹿は」

雪菜 『す、直ぐになおしたのですから、良かったのでは無いのですか……?』

シル 「動かせば直ぐ分かるような致命的なバグだったから、如何に動作検証していなかったかバレバレだしね……」

雪菜 『つ、次の話題に行くのです!』

シル 「今回は最近改修に力を入れている『威沙』のデモンストレーションをやっています」

雪菜 『今のリリースは何の特徴があるのです?』

シル 「半年くらい前のバージョンに比べて変換性能がかなり向上しているし、出力したPDFファイルがモバイル機器で開けるようになったりしている……くらいかな?」

雪菜 『ドキュメント整理も始めたり、開発版も進んでいるのですから、作者さん、頑張っているのです!』

シル 「原稿の方も頑張れや……」

雪菜 『きよ、去年は夏冬ともコミックマーケットに落選したのもあるのではないかと思うのです……』

シル 「まあ、テンション下がるのは分かるけど……でも、イベントというならコミティアだってイベントなんだからしつかりしてほしいわよ、ホント」

■近状

雪菜『忙しいらしいのです』

シル『自業自得』

雪菜『バ、バツサリ過ぎなのです……』

シル『直ぐに火消し出来たとはいえ、自分でトラブル出しちゃねえ……』

雪菜『そ、それ以外にもいろいろと仕事が増えてしまっているのが原因だと思おうのですよ……』

シル『でも、ゲームやる余裕と半田ゴテ握っている余裕はあるのが不思議なところよね』

雪菜『目が笑っていないのですよ……』

シル『何はともあれ、落ち着いてメインの仕事も出来ないって嘆いていたわね』

雪菜『頑張ってるのです……』

シル『さすがにアレは同情するけどね。おかげで今回の『近状』いつもよりもネタが無くて短い』

雪菜『心配するのはそこののですか……』

■次回予告

雪菜『次のイベントは……また五月のコミュニティアでしょうか？』

シル『たぶん申し込みするんじゃないかしら？ その頃には仕事も落ち着いているだろうって言っていたし』

雪菜『この次こそ新刊を……』

シル『せめて『雪と風と彼方の物語』の続きくらい何とかして欲しいわね』

雪菜『わたしも頑張るのです！』

シル『あたしも久しぶりに出番もらっているから頑張りたいんだけどね……』

雪菜『さ、作者さんを頑張ってる鼓舞するのですよ！』

シル『なにやったら鼓舞できるのかしらね？』

雪菜『それは……謎なのです……』

■エピソード

シル『さて、時間が押していることもあり、今回はこのあたりでお別れとなります』

雪菜『短い時間でしたが、ご静聴ありがとうございました！』

シル『……まあ、作者が限界まで引つ張ったのが悪いんだけどね……前々日はこれ書かずに半田ゴテ握っているし……』

雪菜『え、あう……』

シル『それでは、次回あたしたちの出番がまたあつたら、その時はよろしく願いますね』

雪菜『またお会いしましょうなのです！』

雪菜とシルフィードのネーヴェント・コンチエルト おしま

文責:風野旅人 Mail:rabio@din.or.jp Twitter:http://twitter.com/rabio_kazeno

旅人のザック(<http://www.din.or.jp/~rabio/>)

PS.

雪菜『ところで、この『ネーヴェント・コンチエルト』ってどんな意味なのですか？』

シル『ネーヴェントは、イタリア語で雪を意味する『neve』と風を意味する『vento』を合成した造語よ』

雪菜『Concertoはそのまま協奏曲なのですから……『雪と風の協奏曲』ってことですか？』

シル『そゆこと。さすがに『ネーヴェヴェントコンチエルト』じゃちよつとカッコつかないから、veを重ねて繋げたみたい』

雪菜『Nevento Concerto——珍しく格好いい名前なのですー』

シル『あたしが言えたことじゃないけど、それ作者に言わない方がいいわよ、普通に本気で泣くから』